

2年 「先輩教えてください！」

1 目的

この行事では生徒が県内各所で活躍する本校の先輩のもとを訪れ、各事業所で先輩の仕事の様子や職業観、社会観などを伺う中で、職業意識の向上、学習及び学校生活に対する意欲の喚起、愛校心の涵養などを目指している。また、現場で感じた何気ない疑問を集めたり、各事業所のさまざまな分野に対する仮説を立てたりすることで、2年次のSPⅡαやSPⅡβでの課題研究のためのアイデアを見つけ、今後の探究活動の糧とする。

2 概要

2学年は4月当初から探究活動として「モノをカタチにするプラン」としてアプリやIoT開発等に取り組んできた。テーマ設定や課題の部分で、高崎商科大学の前田先生からは「この活動を通して、生徒たちが各事業所に対して気になっていることを収集するだけでなく、当日の何気ない疑問や発見を大切にすることで、課題研究の解決のためのアイデアにつながるかもしれない。」といった助言をいただいた。そこで、今年度はそういった目的についても生徒に明確に伝えた。

本校の卒業生に本事業の受け入れ依頼をしたところ、本年は35の事業所が受けてくださった。その受け入れ企業の業種に基づき、5月中旬、生徒に希望する業種を尋ね、訪問先を割り振った。生徒たちは自分たちが訪問する企業やその業種の課題、SDGsとの関連などを調べ、当日に臨んだ。

当日は、先輩たちにたくさんの質問をすることができ、先輩たちは親身になって回答してくださった。



3 成果と課題

(1) 成果

これらを通して生徒たちはそれぞれの業界が抱える課題とその解決に向けた取り組みなどについて学ぶことができた。事後アンケートでは『「働く」というのは収入を得るのはもちろん、自分の得意分野を活かした仕事をすることでやりがいを感じ、仲間や他社とも協力することで問題を解決し社会に貢献することにも意味があるのだと思いました。』や『仲間とのコミュニケーションの取り方についての話では、自分のことを話すのではなく、相手が自分に話してくれるような状況を作ることが大切であるということを教えていただきました。』といった感想があり、社会貢献への大切さや今後自分に必要な能力への気づきなど生徒にとって多くの学びがあった。

(2) 課題

生徒たちの希望する職種と受け入れ先の企業数の問題から、第1希望の訪問先にはならなかった生徒もいた。本校のネットワークをさらに駆使し、受け入れ先企業の開拓を行えば、生徒たちの本事業に関するモチベーションをさらに高められると考えられる。